





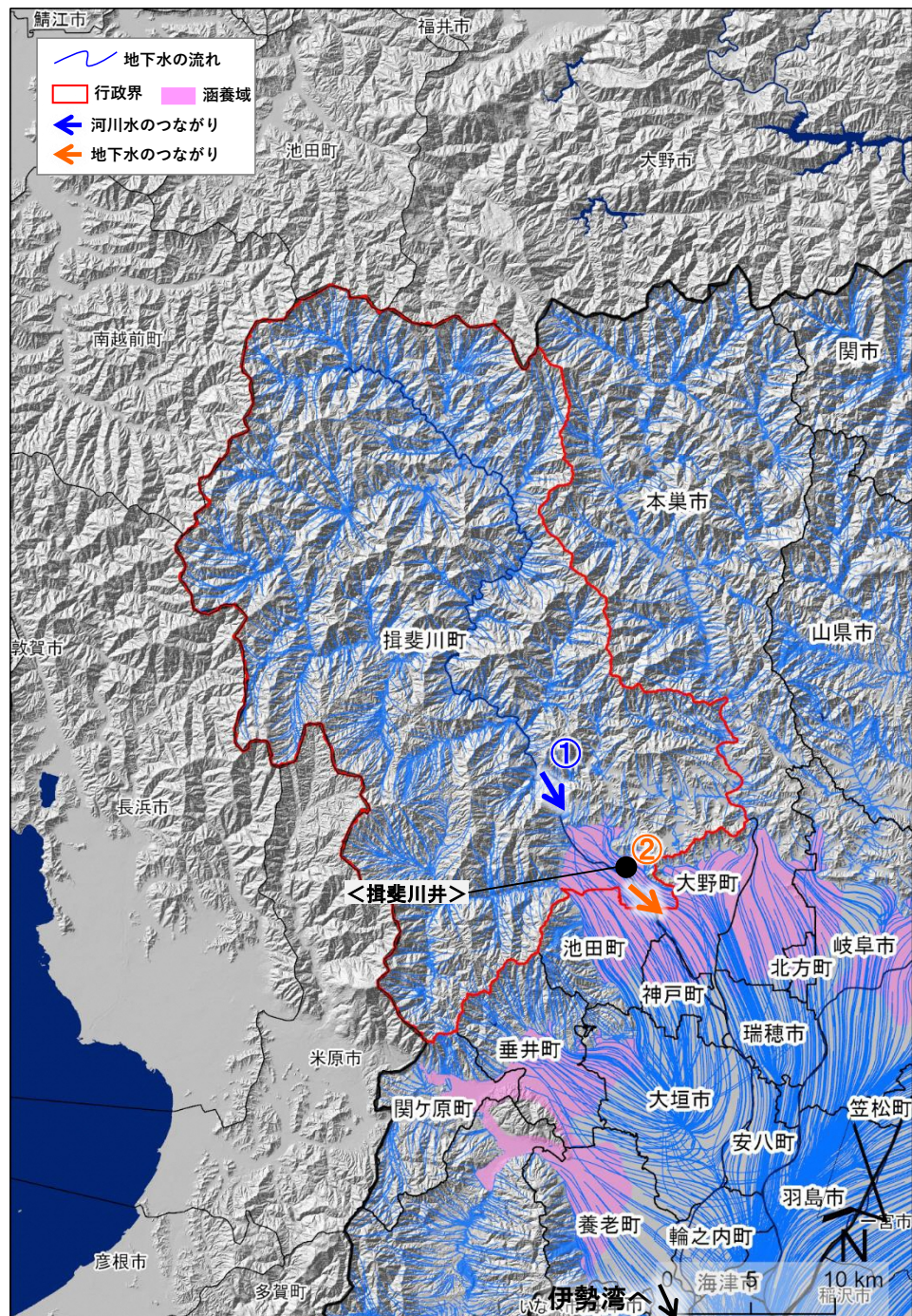
# 揖斐川町

## 地形と地下水

揖斐川町は濃尾平野を流れる地下水の上流域(かん養域)に位置します(図1)。町内でかん養した地下水は、町内を流れた後、下流の地域へ流れていきます(図2)。

その地下水や河川水は水資源として、多くの自治体で共有しています(図3)。

なお、河川水や地下水はそれぞれの上下流とつながっているため、水資源を共有する自治体が連携して対応することが有効です。



※地下水の流れを示した図です。  
 ※かんがい期や非かんがい期など、時期によって地下水の流れる方向は変わります。  
 ※本図はシミュレーションにより推定したもので、実際とは異なる場合があります。  
 ※青線の密度は水の集まりやすさを示したもので、水量ではありません。

図2 地域の地下水の流れ(平面)

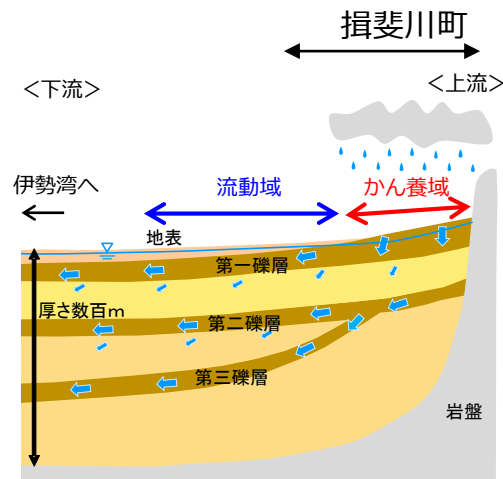
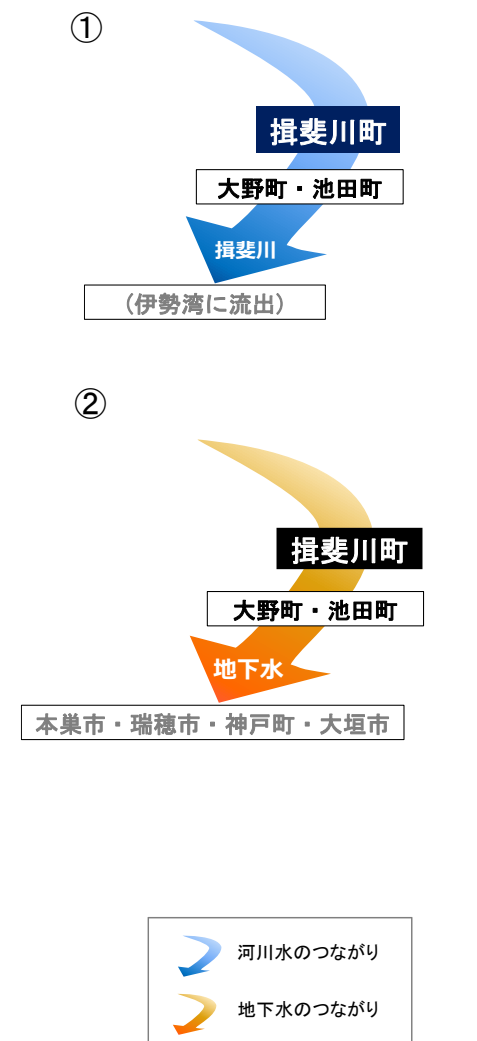


図1 地域の地下水の流れ(断面)



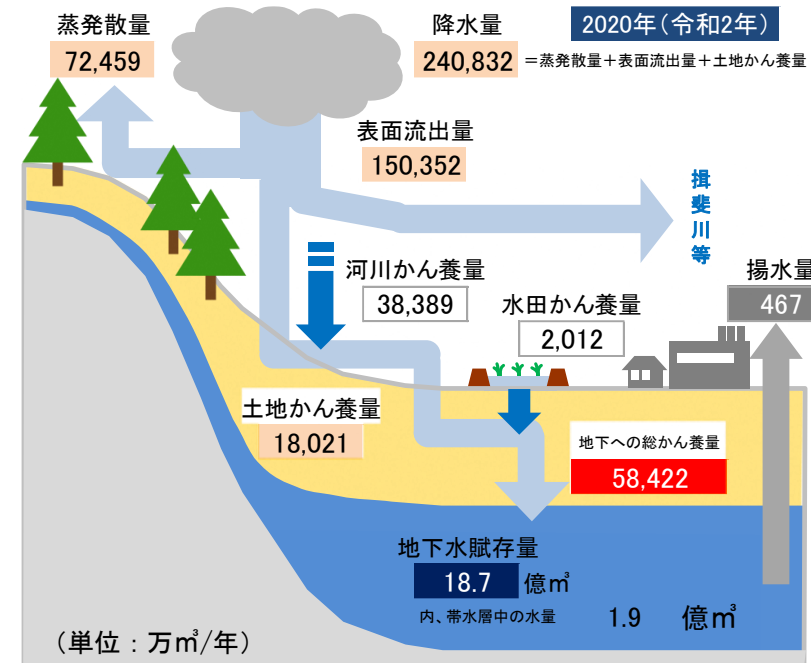
※水資源を共有する自治体のつながりを示したものです。  
 ※同じ水を共有する自治体がわかります。

図3 水資源を共有する上下流の自治体

## 地下水の特徴

揖斐川町では、揖斐川などからの豊富な河川かん養(地下への総かん養量のうち約70%)が地下水を育てているため、地下水の状態は基本的に健全です(図4、図5)。これを背景に水道用水や工業用水の地下水依存度は県平均と比べ非常に高く、河川のかん養による恩恵を受けている地域といえます(図6)。

近年、揖斐川町では市街地化が進み、水田面積が減少しています(図7)。かんがい期(5月~9月)には水田湛水や降水量の増加により、地下水位が一時的に上昇する傾向にありますが、1994年の渇水時には一時的に低下しました(図8)。



※地域における主なかん養(土地、河川、水田)や揚水状況がわかります。  
 ※地下への総かん養量と揚水量を比較することで、地域の地下水に対する健全性がわかります。  
 ※各数値はシミュレーションにより推定した値のため、実際とは異なる場合があります。  
 かん養量: 土地や河川、水田から地下に浸透する水量。  
 地下水貯存量: 地下に水が溜まっている量。実際に使える水量ではありません。  
 帯水層: 水を通しやすく、貯められる地層。

図4 水循環の各水量

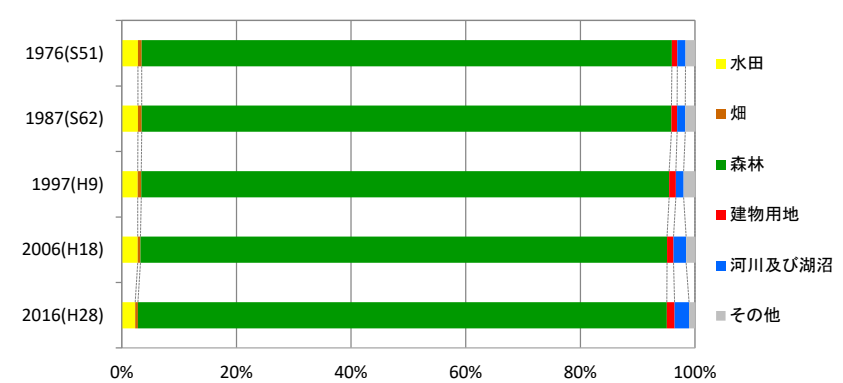


図7 土地利用の変遷

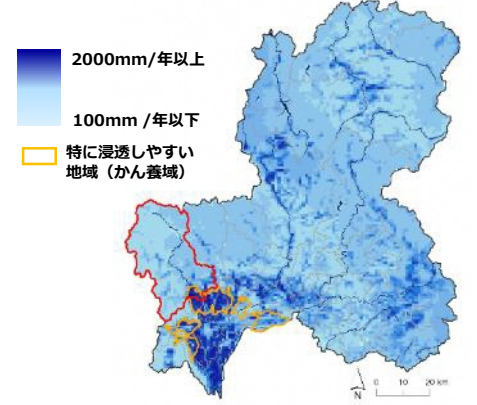


図5 地下への総かん養量(河川かん養量を除く)

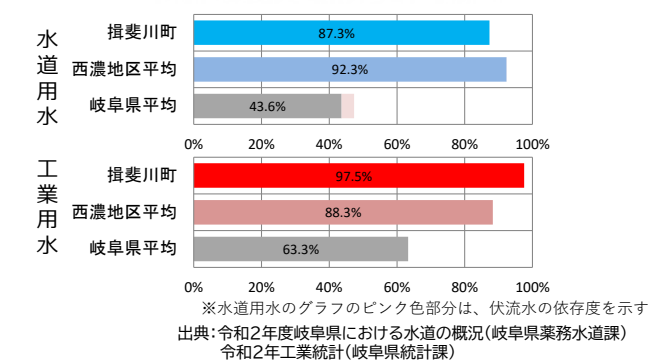


図6 地域の地下水依存度

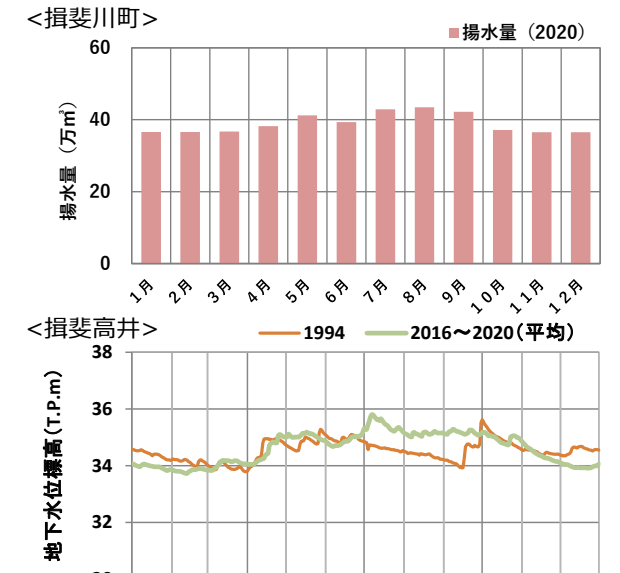


図8 地下水位と地下水揚水量の関係

## 今後の取り組みの提案

今後、揖斐川町は、「水田面積減少による土地かん養量の減少」や「揚水量増加時の地下水位低下」などのリスクがあります。とくに、地下水揚水量の増減が地下水環境に与える影響が大きいです。

揖斐川町の地形や地下水の特徴を踏まえると、かん養強化(森林保全の推進、土地利用の保全)と適正利用(水源の多様化(河川水等複数水源の確保))を地域で取り組むことが望ましいです。